

第1号議案

平成26年度事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

越谷市千間台東1丁目2番地1

特定非営利活動法人越谷らるご

電話 048-970-8881

理事長 増田良枝

「一人ひとりちがうその人の事情を理解し、気持ちに共感し、成長と学習をきめ細かに支援する」という設立趣旨を大切に、これまでと同様に支援活動を行ってきた。

また認定NPO法人格を平成26年7月25日に取得し、寄付を広く集めていくための環境を整えるとともに寄付を集めるための基金の創設、活用、インターネットを通じた寄付プログラムの実施等、広く支援を求める取り組みを行った。

1 事業の成果

(1) フリースクール事業

年間を通し40名前後が在籍し、子どもたちの居場所、育ちの場を提供した他、下記の活動を行った。

講座・学習

- ・音楽活動を行い、地域の夏祭りで発表する等、他団体とも協働して6回の演奏会を実施した。
- ・食育活動として「ひるめし食堂」を週1回、実施した。
- ・子ども通信『Happy Go Lucky』を11回、編集会議を行ったうえ発行した。
- ・学習支援を、通信制高校に通う子ども、自主的な学びを希望する子どもを対象に行った。

イベント

- ・特別活動として、お出かけやお泊り会やクリスマス会、お別れ会などの様々な企画を行った。
- ・夏に三浦海岸で海合宿、冬に水上高原でスキー旅行を実施した。
- ・誕生日会を月に1回開催し、その月の誕生者を祝った。
- ・りんごの木25周年記念事業の準備として実行委員会を開催した。

他団体との連携

- ・2社の民間企業とのスポーツ交流会を実施した。
- ・他のフリースクールと交流会を実施した。

ーフリースクール全国ネットワーク主催のイベント、夏合宿（さいたま市で開催。実行委員会に子どもとスタッフが参加）と合同文化祭「フリースクールフェスティバル」（実行委員長と実行委員を子どもとスタッフが担当。バンド演奏と出店で参加）、フリースクールスタッフ養成・研修講座、日本フリースクール大会に参加し、活動発表等を行うとともにスタッフ研修の場とした。

保護者との活動

- ・保護者会（1回）、保護者面談（1回）を実施した。
- ・保護者有志によるお茶会が毎月自主的に開催され、保護者同士の連携が深まった。

(2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業

- ・親の会を、不登校やひきこもりなどの体験談を聞く機会を交え、実施した。

- ・「発達障害を学びあう会」を「コル～発達障害とともに生きる会」に名称を変更し、4回、保護者、スタッフ有志で開催した。
- ・関係機関と連携しながら相談活動を実施した。
- ・ピアカウンセリング方式での相談会「あつぷるトーク」を月2回、実施した。
- ・不登校・登校拒否を考える全国ネットワークの運営に関わり、全国合宿などの講師を務めた。

(3) 生涯学習にかかわる事業

- ・子どものための芸術ワークショップ「アートプロジェクト事業」を実施した。
- ・20歳以上の居場所「ほっとりんご」を月2回程度実施した。
- ・行政と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」を3回実施した。
- ・講演会（芹沢俊介氏）を行った。

(4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関する事業

- ・平成26年度は5人の子どもたちとスタートし、1年間の平均措置児童人数は4.8人であった。一時保護を含むと、計11人の子どもたちがホームで過ごした。それぞれの不安定さを抱えており、共に悩みながら援助を模索し続けた。
- ・7月に1人、1月に3人、3月に2人が退居した。内2人が20歳を迎えての退去だった。他の4人は会社寮への転居と家庭復帰だった。退去にあたりアパート探し、引越準備、関係機関との連携にと、ホーム内外の場所での援助活動が多くあった。
- ・ホームに居る子どもたちとの関わりだけでなく、退居後のつながりも大事なことである。年々ホームを巣立っていく子どもたちは増えていく。今年は退居後の対応にも多くの時間を必要とした。退去者を含めて成人祝い品を3人に贈ることができた。
- ・スタッフは研修や会議に参加機会を持ち、資質向上の努力を続けた。
- ・昨年度に続いて助成金、寄付金等の援助もあって、洗濯・ふとん干し場環境整備のためのエクステリアのリフォームが実現できた。

(5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業

- ・『越谷らるご通信』を発行した。発送作業はフリースクールの保護者有志が中心で行った。
- ・ホームページの更新、メールマガジン発行、フェイスブック更新等、インターネットを積極的に活用し広報活動を行った。
- ・「ふくしま子ども支援協議会」人材育成事業にメンターとしてスタッフを派遣、協力した。
- ・埼玉県主催「不登校セミナー」にブース出展した。

2 事業の実施にかかわる事項

特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所
(1) フリースクール事業	年間を通して、学校以外の子どもの居場所・出会い・交流・学習の場の提供、活動支援、相談活動、見学・体験入会などの実施、情報提供などを行った。平成26年度は37名でスタートし、11名が新入会し、2名が年度中に退会した。(平成27年3月末の在籍：46名。)	本法人の事業所他

(2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 毎月1回、年10回実施した。のべ参加者数：125名。	本法人の事業所
	相談活動 不登校、ひきこもり、家族関係の問題などの相談を受けた。	本法人の事業所他
	発達障害とともに生きる会 4回、互助的な会を開催した。のべ参加者数：49名。	本法人の事業所他
	あっぶるトーク（越谷市しらこぼと基金） 月2回、計20回、ピアカウンセリング方式で個別の相談を開催した。 のべ参加者数：77名	本法人の事業所
(3) 生涯学習にかかわる事業	アートプロジェクト事業(子どもゆめ基金助成金事業) 5月～翌年3月の土曜日に計29回、不登校の子どもや若者を対象に体験的アート活動を行った。のべ参加者数：298名	本法人の事業所他
	ほっとりんご（埼玉県ひきこもり集いの場運営事業費補助金事業） 20歳以上の人の居場所として毎月2回、座談会や調理など多様な活動を実施した。のべ参加者数：186名	本法人の事業所他
	行政と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を3回実施し、年度末に報告書を作成した。	中央市民会館
	講演会・学習会 講演会を1回開催した。参加者数：33名	本法人の事業所
(4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の生活支援を行った。年間を通して4.8名が在籍した。ホームを巣立った若者たちへの支援も行った。 居室に手すりや竿掛けを設置し、生活環境を整備するリフォームを行った（Shinjoプロジェクト助成）。	本法人の事業所
(5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	『越谷らるご通信』の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、毎月1回メールマガジンの発行とホームページの更新、フェイスブックによる発信を随時行った。	本法人の事業所
	その他 「ふくしま子ども支援協議会」人材育成事業にメンターとしてスタッフを2名派遣、協力した。また埼玉県主催「不登校セミナー」にブース出展した。	依頼先

3 運営管理に関する事項

- ・法人会員は、平成27年3月末現在、正会員105名(103名)、賛助会員39名(56名)であった。
(括弧内は平成26年4月)
- ・広く支援を集めるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金」「若者自立支援基金」、一般寄付を集める取り組みを行った。古書等を通じた寄付活動、オンラインでの寄付サイトでの寄付キャンペーンの活用など、様々な方法を用いての資金集めを行った。
- ・「フリースクールりんごの木子どもサポート基金」から平成26年度の減免会費減額分(966,840円)の一部(415,965円)を充当した。
- ・「若者自立支援基金」への寄付として平成26年度は33,000円あり、基金の総額が239,900円となり、自立支援活動のための準備を整えた。
- ・企業とNPOの協働フォーラムに参加した。また企業とNPO団体をつなぐプラットフォームを利用し、支援金の獲得と広報の拡大を図った。
- ・埼玉県生活保護受給者チャレンジ事業「アスポート」の実習生6名を研修として受け入れた。
- ・譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数12名。左記職員に対する給与総額19,767,590円